

「ジャッボル・ラスロフ郡ハヤチ・ナフ地区ヒトイ村第21学校新校舎建設計画」 引渡し式

10月16日、相木大使は、ソグド州ジャッボル・ラスロフ郡ハヤチ・ナフ地区ヒトイ村（首都ドゥシャンベ市の北約360kmに位置）を訪問し、「草の根・人間の安全保障無償資金協力」で実施された、同村第21学校新校舎建設プロジェクトの引渡し式に出席しました。

本計画で我が国政府が120,308米ドルをジャッボル・ラスロフ郡に供与し、新しい校舎が建設されたことにより、より安全で快適な教育環境が整備されました。

相木大使は引渡し式の挨拶で、教育分野は日・タジキスタン二国間協力において特に重要な分野の一つであり、この支援がタジキスタンの持続可能な発展につながり、日本とタジキスタンの友好が強化されることを願っていると述べました。これに対して、オリムベク・ユルドシュゾダ市長からは、日本政府及び日本国民からの支援に対して謝意が表明されました。

タジキスタンでは、1996年から今日まで、草の根・人間の安全保障無償資金協力として合計462件、総額約3,800万ドルに上るプロジェクトが実施されています。

